

機友会ニュース

(題字は村山五周氏)

BKC移転20周年ー記念事業を成功させようー

立命館大学機友会会長 大内 章

(昭和三十七年卒)



機友会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は本会の諸活動に対し、いろいろご支援を賜り誠に有難うございます。

機友会は昨年創設70周年の記念総会を開催する事ができました。振り返りますと、機友会の創設は昭和16年に日下部先生のご指導により発足した学生機友会に始まります。戦中戦後の苦しい中、強い絆で機友会を運営して下さった諸先輩に思い

を致すとき誠に重いものを感じるがあります。そして昭和37年、初代会長の藤谷先生に引き継がれ今日の流れが出来たように思います。この歴史と伝統のある機友会の発展を祈念し皆様と共に継承して参りたいと思います。

一方、理工学部においても今年BKC移転20周年を迎えます。母校立命館大学においては1994年に理工学部がBKCへの拡充移転を境に発展の一途を辿って参りました。「生命科学学部」「薬学部」に続き平成22年には「スポーツ健康科学部」が設置されBKCは実に7学部となり本部の衣笠キャンパスの6学部を合わせると13学部にもなる一大総合大学にまで発展して参りました。

この度BKC移転20周年の節目にあたり理工学部では記念事業として各学科毎に教育研究の一層の充実を図るため、いろいろ事業計画をし

ています。この計画に当たっては深遠なる意義の基、理工学部の教育・研究を世界水準に引き上げるだけでなく、日本の科学技術の発展および国際競争力の向上につながることを目指しております。なかでも我々の機械システム系においては「ものづくり人材育成イニシアティブ」を設置し次世代を担う後輩達を育成するため環境を整備し一層のレベルアップを目指しています。

この記念事業を達成するには長い努力と相当の困難が予想されますが、活躍する後輩達と母校の発展を期待し教職員はじめ卒業生、我々実行委員一体となり事業の成功を信じ寄付活動を展開しています。機友会の皆様方におかれましてもこの趣旨にご理解を賜りご協力を頂きたくお願い申し上げます。

この事業に参加する我が心情を与謝野晶子の歌に見ましたので紹介させて頂きます。

「劫初より つくりいとむ 殿堂に
われも黄金の 釘ひとつ打つ」

科学技術の発展は人類にとって多大な恩恵をもたらしますが、その反面、一歩間違えたと想像を絶するような被害を引き起こします。そして技術が進歩すればするほど事故も被害も巨大化し複雑になりグローバル化してきます。技術にはこのように良い面と悪い「負」の面の二面性があります。

最近の科学技術に関連するトラブルを観ると倫理性が問われているよ

うな事案が多いように思えます。例えば「原発事故」、「韓国の新ウオルフ沈没事故」、「STAP細胞問題」、「PM2.5被害」、「トルコの炭鉱事故」など夫々の国情と深く関係していると思いますが、いずれの事案も成果を急ぐ余り、歴史や過程を軽視し、客観性を欠き、原理原則から逸脱したのではないかと思えます。

インドの哲人の言葉を借りれば「人間性なき科学」「人格なき教育」「労働なき富」「道徳なき商業」等は世間に対する大罪であると断じています。

しかし一方、現実の世界における技術競争は熾烈をきわめ、日々生き残りをかけた競争が繰り広げられています。これが現実の世界であり、したがって成果も急がされているのも当然だろうと思います。このような厳しい社会環境の中で、二面性を持った技術において安全性、信頼性、コスト、工程などの「負」の面を極力小さく、少なくするのには研究者自身の人間性によるところが非常に大きいと思います。従って科学技術者に対する「人間学」や「人格教育」などをベースとした「人造り」が必要になってくると思います。

そこでこの度の記念事業により教育・研究の世界水準を目指す事は誠に素晴らしいOBの皆様も応援を惜しまないと思いますが、同時に世界水準の研究者になることも目指してほしいと思います。その意味で理工学部の研究者に対し「倫理、哲学」などによる「人間教育」の充実が必須になってくると思います。

いみじくも機械システム系では「ものづくり人材育成イニシアティブ」に取り組むことは当を得たものであり、このBKC移転20周年記念事業が日本の科学技術の発展に貢献することを期待し機友会の皆様と共に見守って行きたいと存じます。

最後になりましたが、会員各位の益々のご健勝をお祈り申し上げ、巻頭のご挨拶に代えさせて頂きます。



2013年度機械システム系 卒業・修了パーティー 開催のご報告

2014年3月22日、立命館大学卒業式・修了式が執り行われました。そして、その日の夜「機械システム系卒業・修了パーティー」が大阪のロイヤルオークホテルスパ&ガーデンズで開催されました。参加人数、学生113名、教職員32名、会長支部長2名、合計147名。男子学生はフォーマルなスーツ姿、女子学生はドレスアップして出席して下さり、会場の豪華さと相まって、大変華やかな雰囲気となりました。

パーティーの冒頭、開会の言葉をロボティクス学科長の川村貞夫先生より、ご祝辞を機友会会長大内章様より、そして来賓紹介の後、乾杯の言葉を酒井達雄先生より頂戴いたしました。人生の先輩からの心なむけの言葉は卒業する学生の心に響いたことと思います。

その後は、おいしいお食事とお酒をいただきながら、各テーブルで和気あいあいと歓談いたしました。

そしてメインイベント、大ビンゴ大会が開催されました。「教職員Karade賞」「機友会Karade賞」「ホテルKarade賞」と3つの賞が用意され、「ビンゴになった人から順に景品を選んでいく」という形で行われました。司会は、機械工学科の伊藤先生、ロボティクス学科の野方先生の名コンビ。2人の「リッツでっ、ビンゴ〜!」の掛け声で始まりました。「教職員Karade

賞」は、教職員の方々に景品の提供をお願いし、プラモデル、アクセサリー、お酒、Tシャツ等々、たくさん品の品物を提供していただきました。それぞれの趣味や好みが反映された品物がスクリーンに映し出されると、会場が湧きました。中でも学生の注目を一番浴びていたのは、工作センター提供の「ノギス」！機械系の学生には必須アイテム、とのこと、勉強熱心な学生達の争奪戦となりました。そして今回の目玉商品は、教職員からの募金で購入した携帯音楽プレーヤー「iPod nano」。なんと「立命館大学機友会」の刻印入りです。見事ゲットした学生さんの「最高です!」のコメントに、周りの人達も幸せな気分となりました。「機友会Karade賞」は、立命館のネクタイやマグカップなどの立命館グッズや、ギフトカード、駄菓子等、「ホテルKarade賞」は、ロイヤルオークホテルのご厚意でホテルの焼き菓子詰め合わせをたくさんご提供いただきました。ビンゴの1位、2位、3位には、金銀銅メダルチョコがかけられ、大いに盛り上がりしました。

ビンゴ大会の後、閉会の言葉を、現学系長徳田功先生からいただき、最後は全員で記念撮影をし、名残惜しくも解散となりました。

この度、パーティーを企画するにあたって「立命館大学を卒業して良かった、と思えるような思い出に残る楽しいパーティーにしたい」という気持ちで準備して参りました。記念撮影の時に「私は卒業しますが、是非また来年以降も開催してください。」という温かい言葉を学生さんからいただき、パーティーが開催できて本当に良かった、という思いが胸が熱くなりました。

立命館の思い出の一つとして、これからも参加して下さった皆さんの心に残ってくれたらいいなあと思っています。このパーティーでの「出会い」が今後もつながっていき、皆さんがそれぞれのご活躍の地で交流を深めて下さることを楽しみにしています。





立命館大学機友会創立70周年
記念総会・第24回定時総会
開催のご報告

2013年10月26日(土) 12時より、ホテルグランヴィア京都の古今の間に於いて、立命館大学機友会創立70周年記念総会・第24回定時総会が開催されました。前日からの台風の影響で開催が心配されましたが、こちらの心配をよそに、受付開始と同時に続々と参加者の方が来られ、72名の方が出席してくださいました。

総会の第1部は、次の議事のとおり、滞りなく行われました。

1. 大内会長挨拶 2. 事業報告
3. 会計報告 4. 役員改選の件
5. 各支部長挨拶

第2部では、立命館大学理工学部特別任用教授 酒井達雄先生、元立命館館長・学長 機友会顧問 大南正瑛先生のお二人よりご講演いただきました。酒井先生は「立命館大学機友会70年の歩みと今後の展望」という題で、立命館大学の草創期の歩みから現在の理工学部BKC拡充移転20周年記念事業に至るまでの機友会の長い歴史について詳しくお話をして下さいました。昔の校舎や機友会の記念写真がスクリーンに映し出され、懐かしさを覚えた方もたくさんいらっしゃったことと思います。大南先生からは、大南先生ご自身のご近況と、機友会に対する激励のお言葉を中心にお話いただきました。講演中は、会員の皆様がメモを取ったり、写真を撮ったりするなど熱

心に聞き入っている様子で、機友会に対する熱い思いを感じました。

最後に全員で記念撮影をし、次の総会での再会を誓いつつ解散となりましたが、懐かしい面々との久しぶりの再会に、お互い誘い合って次の会場へと移動していくほほえましい光景が繰り広げられていました。

同日同会場で、校友会主催の「オール立命館校友大会2013 in 京都」も開催されており、ホテルの装飾も立命館カラーに染まり、多くの校友でにぎわっておりました。

総会・懇親パーティーでは、華道家元池坊次期家元の池坊由紀さんのいけばなが披露され、大変華やかな雰囲気になっていました。また、若手校友のための「立★コン」やアフタヌーンティーパーティーなど、様々なイベントも行われ、老若男女、あちらこちらで立命館の校友の方々が交流を深めている様子が見られました。

今日、びわこ・くさつキャンパスは7学部7研究科を持つ大規模なキャンパスに成長し、今年で20周年を迎えました。機械系では、2012年には旧機械工学科と旧マイクロ機械システム工学科が再編され、特徴のある研究分野を統合した新しい機械工学科とロボティクス学科の2学科体制が誕生し、さらなる飛躍を遂げようとしています。このような新たな局面を迎えた中で機友会創立70周年を無事開催することができ、大変感慨深く、今後も機械システム系の更なる発展に期待するばかりです。

会員の皆様には、今後とも母校・立命館大学機友会の発展にご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

次回の機友会総会は、2015年度開催予定です。皆様お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。



酒井先生ご講演の様子



大南先生ご講演の様子



総会参加者集合写真



東海支部だより
「新体制発足後の活動状況と
今後の活動計画」
立命館大学機友会東海支部
支部長 堀 美知郎

機友会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素は機友会の活動に対し、ご支援・ご協力を賜り誠にありがとうございます。深く御礼を申し上げます。また、BKC開設20周年を心よりお祝い申し上げます。

機友会東海支部は平成5年7月25日に設立され、今年で設立から21年を迎えました。

今年の3月9日に東海支部第三回総会を開催し、新役員体制のもと新たな気持ちで走り出したところでございます。こちらの場をお借りして、新体制発足から現在までの状況、また今後の東海支部の活動計画につきましてお話をさせていただきます。存じます。

平成25年の夏に機友会本部副会長 酒井先生より、役員改選をしたく支部長をお願いできないかとお話をいただきました。それから次期支部長として、酒井先生そして東海支部機友会の方々の協力を得て、次期新役員として13名にお願いするに至りました。東海支部第三回総会開催また、今後の機友会の活動の発展のために、機友会東海支部会員が多く在籍する企業に幹事を設け、役員・幹事が中心となり、東海支部第三回総会には77名もの会員にご出席いただきました。

第三回総会は平成26年3月9日に名鉄ニューグランドホテルにて開催されました。立命館大学からも遠路遙々ご出席いただきました。機友会本部 大内会長にご挨拶、田中道七先生、酒井達雄先生には記念講演をしていただきました。また、来賓として立命館大学愛知県校友会 林会長、立命館大学理工学部より高山先生がご出席下さいました。

総会は3部構成とし、1部では東海支部の活動報告、会計報告、新役員改選について議事を進め、検討がなされました。2部では、田中先生、酒井先生に記念講演をしていただき、引き続き3部として懇親会が開かれました。懇親会では、東海支部会員吉水正博氏（昭和28年卒、笠寺工業（株）代表取締役社長）が趣味でされているカンツォーネをご披露いただき、和やかな雰囲気の中が始まりでした。ビンゴ大会や、卒業年度別写真撮影、また最後には立命館大学校歌・応援歌を皆で斉唱し和気あいの楽しい雰囲気の中に閉会しました。

この総会を機に、より機友会東海支部が発展していくような活動を考えております。まず、県を地域に分け、地域ごとの小さな単位での活動を活発にしていこうと考えています。そして、機友会の若返りを図り、若い力・女性にも大いに力を発揮していただく企画を考えていく所存でございます。

また、電友会と連携し、企業内での立命館大学OBの活動を活発にしていくような計画も考えています。

東海支部は日本の製造業、特に機械関連の製造業が集積しており日本の中心部にあります。その意味でも、機友会にとりまして東海支部がけん引役を担っていくことができるように努力して参ります。

総会参加者の集合写真



田中先生ご講演中の様子



総会の様子

研究室だより
機械工学科 衝撃工学研究室
渡辺圭子

二〇一一年四月に機械工学科に着任いたしました渡辺圭子です。同年から「衝撃工学研究室」を立ち上げ、学生と共に日々試行錯誤しながらも精力的に研究を行っております。本学科には衝撃工学を専門とされる日下貴之先生がいらつしやいますが、私の専門分野はもう少し早い速度での衝撃（秒速数百メートルから数千メートル）であり、航空・宇宙分野で取り扱われる事象・現象が中心となっております。具体的には航空機機体への鳥衝突（秒速数百メートル）や宇宙空間での宇宙ゴミと宇宙機との衝突（秒速数キロメートル以上）などがあります。このような速度域での高速衝突は、低速負荷時には見られない特異な現象を引き起こすことから物理的に大変興味深い研究課題です。凝縮媒体中での衝突現象に限らず、衝撃波を伴う気体の挙動も含め、高速衝突により引き起こされる現象の解明を目指して、装置の開発、様々な実験および解析、基礎理論の構築を行っております。

高速現象を取り扱う際に最も困難なことは、衝突物体が移動する速度も速いのですが、現象も速い上に、ごく短時間で初期の現象が終わってしまうことです。例えば衝突により誘起される温度や圧力を計測する際、遅くとも数マイクロ秒の応答速度を

持つ計測器および記録計を使用しなければ計測できません。実際にそのような機器が存在した場合も、高額になるため手が出ないのが現状です。そこをアイデアで乗り切ろうと、衝突実験に入る前に計測法の確立に頭を悩ませる毎日です。また最近では、特異な現象の一つである衝突誘起プラズマの計測にも取り組んでおり、新たな知識の習得のために、学生と試行錯誤の日々です。

このような高速衝突実験を遂行するためにには特殊な物体加速装置が必要となりますので、その開発も研究テーマの一つとなっています。現在研究室には、縦型火薬銃（Fig. 1 参照）が設置されています。本装置は二〇一一年十二月に東北大学の高山和善先生から譲与された装置であり、飛行速度域：0.5～2.2 km/sec、発射管内径：φ15 mm という仕様になっています。元々は高さ 3 m 超の装置で、二段式軽ガス銃として使用していましたが、実験室天井の制限により上部を取り除き、火薬銃仕様に改良して使用しています。また、火薬銃の得意でない速度域を補完する装置として、縦型無隔膜ガス銃（Fig. 2 参照）を現在開発中です。飛行速度域：0.001～0.01 km/sec、発射管内径：φ15 mm という仕様になっています。火薬銃やガス銃という装置は国立大学を中心いくつか設置されていますが、ほとんどが横型であり、本研究室所有の装置の一番の特徴は縦型であるということです。なぜ縦型かというと、流体挙動を示す材料をターゲットにできるからです。特に最近では砂等の粒状物質を扱っており、粒子自体は固体ですが、その集合体の挙動は形状不安定な流体として取り扱わなければならず、現象が大変複雑になり、興味深い現象が続々と取得されています。もう一つの特徴として、無隔膜（ガス銃）というキーワードがあります。通常は隔膜を使用してガスを高圧に充填し、隔膜が破れることにより物体を高速で発射するのですが、この隔膜片が後からバラバラとターゲットに当たり、特に砂を扱う場合は実際の物体衝突による現象以外の余計な情報も取得されてしまいます。それを避けるためにこれまでにないアイデアで隔膜を使用しない装置を開発しています。

本学に赴任してもう四年目になりますが、まだ装置開発や計測法の確立を中心とした研究室立ち上げ段階

です。最近ようやく物体加速装置の試射ができる状態にまで到達し、今夏には評価試験を終える予定です。早々に研究を軌道に乗せ、学際的研究の視点に立ち、様々な高速衝突現象の解明、物理モデルの構築につなげてまいりたいと思っております。つきましては機友会会員の皆様方には、分野を超えて広くご指導、ご鞭撻いただけましたら幸いです。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



図 2. 縦型無隔膜ガス式物体加速装置



図 1. 縦型火薬式物体加速装置

研究室だより
機械工学科
マイクロ・ナノ加工計測研究室

安藤妙子

1. はじめに

立命館大学には2009年4月に准教授として着任し、今年で6年目に突入いたしました。着任時にはマイクロ機械システム工学科の所属でしたが、学科再編により、2012年より機械工学科所属となつて現在に至っております。当初は全く異なる環境に移つて正直戸惑う暇もなくただひたすら毎日をこなしておりましたが、幸い多くの同僚の方々や生徒たちの助けを受け、立命館大学教員として自分を成長させることができました。とくに、赴任当初は半期を通して講義を担当するのはもちろん初めてであり、講義のたびに緊張しながら、90分という授業単位をうまく使つて学生に理解してもらうためにはどうしたらいいのかということを一生涯懸命考えました。幸い、研究分野に近い内容を講義で持たせていただけたので、研究のための基礎作りに講義が大きく役立ちました。

さて、立命館大学に赴任してきて最初に感じたのが、「開放感ある雰囲気」です。とくに教員同士、教員と職員同士といった関係性を構築しやすく感じ、自分次第でネットワークを広くも深くもできそうだという印象を受けました。この「自分次第」という印象を受けたときに、私は母校である岐阜県立多治見北高校

の校訓を思い出しました。それは「自主・自律・自学」です。新たな一歩を踏み出した際、この言葉を改めて思い出して新たな環境作りに挑みたいと考えました。そんな立命館大学では初めて自分の研究室を持ち、研究室を維持し発展させていくおもしろさを味わっています。

2. 研究内容紹介

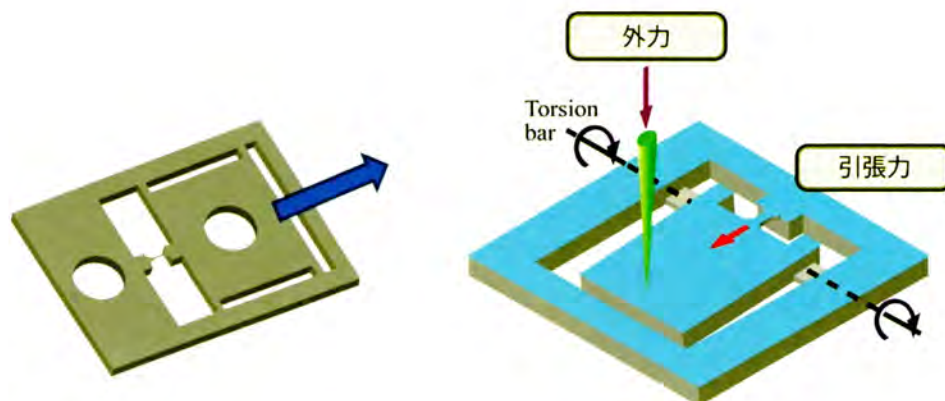
研究では、寸法にしてミリメートルからマイクロメートル、そしてナノメートルを基本寸法とした材料試験、そしてものづくりに関する研究を行っています。対象としている材料は主に単結晶シリコンであり、通常電気電子部品の材料として使われていて、機械材料として見なされてこなかったものです。しかし、マイクロマシン (MEMS = Micro Electro Mechanical Systems ともいいます) が登場し、そのマイクロマシンの主材料の一つとして単結晶シリコンが利用されるようになりました。

機械の軽・小・短・薄が尊ばれるようになったのは30年ほど前のことでしょうか。当時の私はまさか機械の分野に進むことになるなどと考えてもいなかったのですが、機械が小さくなることは国土の小さい日本では非常に有効なことだという認識を持った覚えがあります。マイクロマシンはちょうど同じ頃、そのような環境の中で新しい分野として立ち上がったことになりました。

単結晶シリコンは機械材料として成り立つのか？ その回答を得るために、各研究者がぼつぼつと実験成

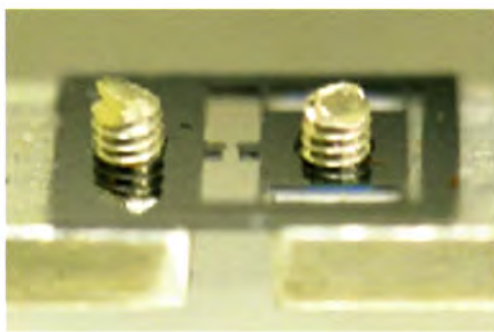
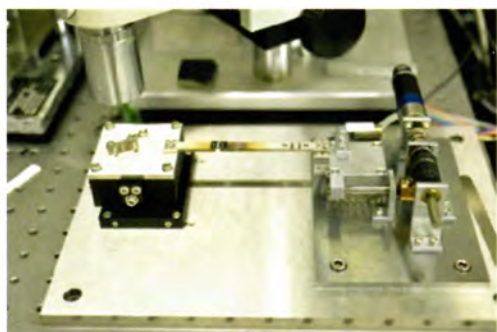
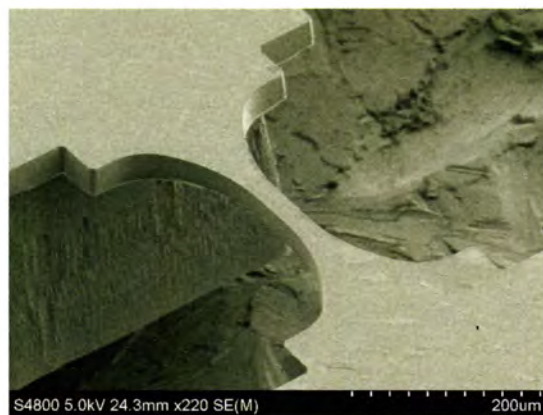
果を報告していた頃、私も大学院で同様の研究を行っている研究室に配属され、材料試験を研究として行うことになりました。マイクロマシンで実際に使われる寸法、すなわち数ミクロメートルの大きさの試験片は、手で取り扱うことも試験機に取り付けることも格段に難しい作業になります。それを解消する方法として、試験片を数センチメートル角のチップ内に作製するとともに、試験片周りに試験装置に取り付けたり荷重を加えたりすることを容易にする構造を合わせて作り込み、それで試験を行うなどの工夫を要します。現在立命館大学でも同様の研究を続けており、試験片と周辺の構造を自分たちで設計して作製する、試験装置も合わせて設計・製作することを学生と一緒に進めています。

単結晶シリコンの加工には、フォトリソグラフィ、エッチング、薄膜堆積といった半導体の製造手法を用います。表層に微細パターンを描画する半導体の製造法を構造体製作に応用するために、様々なノウハウや製造装置を必要とします。幸い、立命館大学ではマイクロシステムセンタやバイオメディカルデバイス研究センターが存在し、センタにある装置を共用で利用できるといった環境が整っているため、研究に大いに活用させていただいています。



マイクロ引張試験片を持つシリコンチップ、試験機に取り付けやすい機構(左)と外力を引張力に変換する機構(右)をそれぞれ持つ。

マイクロ寸法の引張試験片 →
(中央直線部で長さ 50 μ m, 幅 25 μ m, 厚さ 15 μ m)



←
A4 サイズの引張試験機(左)と、
中央に取り付けたシリコンチップ

研究室集合写真



3. おわりに
機械工学科で研究を続けていく中で、ありきたりではありますが「ものづくり」の精神を大事に行きたいと考えています。そういった意味を込めて研究室名を「マイクロ・ナノ加工計測研究室」としました。これまでの機械加工とは少し異なるマイクロ加工を軸に機械工学科の一員として、今後も研究・教育を基軸に精進していきたいと思っています。

BKCの今

卒業してから、なかなか大学に訪れる機会のない方、学生時代は衣笠キャンパスで、まだBKCに訪れたことのない方、そんな方々に向けて、今回は「BKCの今」について、ご紹介したいと思います。

一つ目は、2014年に完成した、新棟「トリシア」。二つ目は、生協で販売している「立命館グッズ」について、取り上げたいと思います。

トリシア

びわこ・くさつキャンパス(BKC)に、理工学部環境都市系3学科(都市システム工学科、環境システム工学科、建築都市デザイン学科)の学生が主に利用する理工系新棟「トリシア」が完成しました。

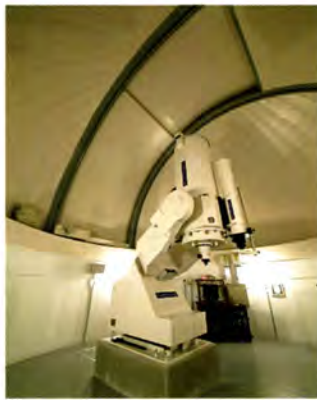
「トリシア」は理工系の実践的な教育を実現し、建物自体を教材にするという新たな発想で建てられた環境教育棟です。

トリシアの名称の由来は、「Tri」は Trinity (三位一体) であり、「教員・職員・学生」の連携や「産・官・学」の連携を表わします。「cea」は英単語の頭文字で、Communication(交流・憩いの場)・Experiment(実験する・試す・挑戦する)・Acquire(知識・学問等を学ぶ)の意味が込められています。



← トリシア

トリシアの屋上には、口径60cmの天体望遠鏡を備えた天体観測室が設置されています。これは、理工学部とのびわこ・くさつキャンパス移転20周年記念事業のひとつです。これにより、学生たちはキャンパス内で太陽や天体の観測を行い、研究に活かすことができるようになりました。また、地域の子供達や一般の方を対象とした観望会も行われており、今年6月に行われたBKC開設20周年記念企画「サンクスデー」では「天文台ツアー」が催され、トリシアの前に参加希望者が長蛇の列を作るほどの大人気企画だったようです。



理工系新棟「トリシア」建物概要

構造…鉄筋コンクリート造
階数…トリシアⅠ 地上6階建
トリシアⅡ 地上3階建
床面積…6,958.41㎡

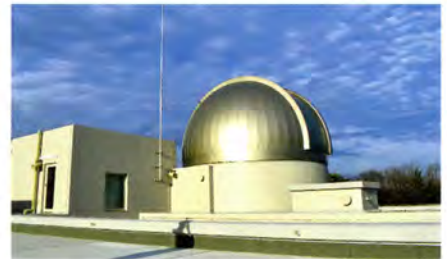
夜の風景



天井



天体観測室



扉などもすべてガラスで作られており、中の研究の様子も伺える、開放感のある新棟です

廊下や研究室の一部は、天井を張らずに、天井裏の配管などが見えるようになっています

大学キャンパス内の天体望遠鏡としては国内最大級です

立命館グッズ

BKCの生協で今、一番売れている立命館グッズについて、生協の職員の方に伺いました。

お菓子の中では「みかさ」が一番人気だそうです。「みかさ」には、立命館の焼き印が押されていて、帰省のお土産や、入学や卒業の記念にと、保護者の方が買って行かれることも多いとか。もちろん、お味の方でも間違いなしです。お菓子以外のグッズの中では、フェイスタオルが一番人気とのこと。その他、絵葉書のセットや文房具なども人気商品だそうです。生協のグッズコーナーに行くと、ネクタイや、タオルハンカチ、ウェアなど、たくさん立命館グッズがあり、中には、立命館のチャリダーに扮したキティちゃんのストラップなどもあって、思わず買いたくなるグッズでいっぱいでした。大学に来られた際には、是非、生協で立命館グッズを見てみてはいかがでしょうか？



みかさ

事務局だより

立命館大学機友会ニュース第16号の発行にあたり、ご寄稿いただいた皆様に対し、心からお礼申し上げます。

3月に開催された「卒業・修了パーティー」では、たくさんの学生・教職員が集い、ビンゴ大会等、大いに盛り上がりました。私自身、大変楽しい時間を過ごさせていただきました。また、このパーティーで、機械システム系の教員と学生の仲の良さ、距離の近さを感じ、日頃の授業もこのような良い雰囲気で行われているのだろうと想像しました。

卒業生の皆様にとって、卒業後も、大学に行ってみようかな、〇〇先生に会いたいなあ、と思えるような大学であってほしいなあと思います。最近卒業した方、何十年前前に卒業した方、一度大学に遊びに来てみませんか。まだ一度もBKCに足を踏み入れたことのない方、是非一度、広大なBKCキャンパスの見学に来て下さい。旧友と学食でランチ！なんていかがでしょうか？

会員の皆様のご住所等、情報の変更がございましたら、機友会事務局までご連絡下さい。(萩)

支部総会開催のご案内

・滋賀支部総会
11月15日(土) 10時～, BKC
・北陸信越支部総会
11月22日(土)～23日(日)
鯖江市で開催

立命館大学機友会連絡先

〒525-8577

滋賀県草津市野路東1-1-1

立命館大学理工学部

機械システム系内

立命館大学機友会事務局

萩 祐子

電話 077-561-2664

FAX 077-561-2665

E-mail: kyukai@gst.ritsume.ac.jp

機友会ホームページ、
リニューアルしました！

是非一度、アクセスしてみてください！

<http://www.kyk.se.ritsume.ac.jp>

